多様な視点の災害時用情報共有促進ツール制作・普及啓発事業
【株式会社 熊本日日新聞社】

事業を行った背景

災害発生時、危険から身を守り、的確に行動・対処するためには、多様な人々や地域が協力することが必要となる。災害発生時に必要となる様々な情報や防災への意識などにズレが生じないよう、これらを平時から事前に“情報共有”しておくことが重要である。

昨年４月、震度5を超える2度の大地震を経験し復興に向けて動く熊本県。平時から防災の意識を醸成する必要性を県内のみならず全国に向けて発信していくことができると考え、本事業を実施。

目的・目標

①男女、家族など多様な人々と地域が共有すべき災害発生時の行動指針や情報を明確にし、情報共有のためのワークシートを制作
② ①のワークシートを活用することで男女が協力して危険への対処（防災）行動を行う意識の醸成⇒≪①ワークショップの開催（一般生活者および大学生200名）、②新聞、フリーペーパー、防災系ラジオスポット、Webサイトでの普及啓発の実施≫
③避難所等で被災者をサポートしたNPOの活動事例から今後の課題等を検討する⇒≪今回熊本地震で活動したNPO等の民間団体の活動事例を取材し、男女共同参画の視点からまとめた冊子の制作≫

事業の特徴

被災者である県民に直接ヒアリング調査やアンケート調査を実施。

熊本地震の経験を活かし、災害時に必要となる実態に即した重要情報から優先的にまとめた。

使用者の状況に合わせて柔軟に使用できる情報共有ワークシートを制作。

ワークショップの開催や、新聞、フリーペーパー、ラジオ、Webといった多様な媒体を活用したクロスメディア展開を実施し、幅広く普及啓発を実施。

連携団体

特定非営利活動法人ソナエトコ
熊本大学（※ワークショップ開催時）
熊本学園大学（※ワークショップ開催時）

※情報共有のためのワークシート制作に際し、避難所で活動したNPOや行政（熊本県、熊本市）の意見等も加味し、より実態に即したものを設計

事業の効果

■「ワークショップの開催」（県内大学生、一般県民向け）
災害時の情報共有の必要性や防災の意識を高めるために、作成したワークシートを実際に活用するワークショップを開催
・参加数　210名　参加満足度「よかった」 77%

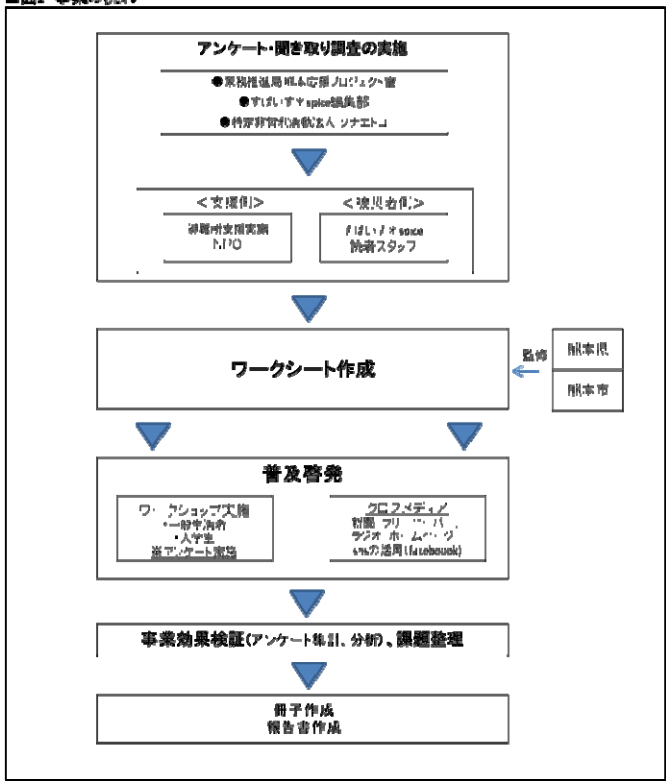
■Webサイトを通じた普及啓発
フリーペーパー公式HPにワークシートを掲載するとともに、SNS上でPR。
ダウンロード数：182件
SNS（Facebook）のPR記事へのリーチ：1,266

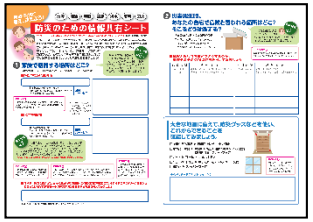
今後の課題

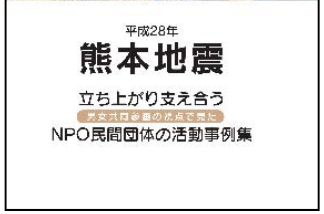
熊本日日新聞社は被災地のマスメディアだからこそ、継続的に利用できるこのワークシートを普及啓発し防災に対する意識醸成を行う事で、災害時、熊本県民が震災の経験を生かし、様々な視点を持ちながらリーダーシップを取ることができるよう啓発していくことが今後の課題。また、その啓発方法として、様々な世代にその重要性を伝えるためにはWeb展開が欠かせない。効果的に幅広く展開し熊本地震で支援した個人や団体、そして今も支援を続ける人々に向けて情報を発信し、情報共有の必要性を共感してもらうことで拡散する手段を講じることが、より広く効果的に情報を共有できる時代にあった展開であり、今後の課題。

事業の概要

■図1 事業の流れ







（1）災害時用情報共有促進ツール作成のための各種調査― 事前アンケート、ヒアリングの実施

目的：地震発生時の行動、情報の共有状況を把握し、災害発生前に共有すべき情報等の具体化

■事前アンケート実施概要
期間　平成28年　7月12日～19日　回答数　65（男性31、女性34）
対象　20～60代の熊本地震の被災者および支援者（NPO等）

■ヒアリング（グループミーティング）
開催日　平成28年7月20日及び21日 参加者総数　16名
対　象　熊本市在住の20～40代の家庭を持つ女性

（2） 調査結果に基づく災害時用情報共有促進ツールの作成
―「災害時にあなたを守る情報共有ワークシート」の制作
― 災害支援者向け情報誌の作成 「平成28年熊本地震　立ち上がり支えあう
～男女共同参画の視点から～NPO民間団体の活動事例集」
熊本地震のデータ、被災者を支援したNPO等民間団体の活動を男女共同参画の視点から収集。
＜内容＞
■ データで見る平成28年熊本地震
■ NPO・民間団体活動事例（よか隊ネット、くまもと友救の会、NPO災害ボランティアなみの、熊本こども・女性支援ネット、こどもの給食を考える会くまもと、ななついろネットワーク熊本、コレクティブ熊本学園大学、ヒューマンネットワーク熊本）
■ 熊本地震を通して見えてきた、被災時の支援体制の在り方と課題
■ 地域・家族で考え、備えよう！ 男女共同参画の視点で考えた防災のための情報共有シート

（3）・災害時用情報共有促進ツールの普及啓発
〇「ワークショップの開催」（県内大学生、一般生活者向け）
災害時の情報共有の必要性や防災の意識を高めるため、（2）のワークシートを実際に活用。
■実施概要
開催日　①平成28年12月10日　②平成29年1月11日　③平成29年1月12日
会　場　熊本学園大学（参加数　62名）
内　容
【第1部】講演　特定非営利活動法人 ソナエトコ代表　水野直樹 氏
演題 「災害時にとるべき行動や共有すべき情報とは？
～熊本地震の経験と男女共同参画の視点から」
【第2部】ワークショップ　防災のための情報共有シート
〇各種媒体において普及啓発を実施。
・熊本日日新聞朝刊本紙（掲載日：平成28年12月11日（日）23面）
・熊本シティエフエム
（熊本市指定臨時災害FM。放送機関　平成29年11月17日～12月7日）
・女性ターゲットのフリーペーパー「すぱいす＊spice」
（30万3千部配布。平成28年11月18日掲載）